

<b>タイトル (活動概要)</b>	27 友達チェーンをつくろう	<b>アプローチ (関連する力)</b>	「自分づくり」④ 「仲間づくり」⑥ ⑮		
<b>タイミング (実施時期)</b>	クラス編成後しばらくして	<b>活動場所</b>	教室	<b>所要時間</b>	45分
<b>対象学年</b>	幼・小低・ <b>小中</b> ・ <b>小高</b> 中1・中2・中3・高	<b>対象規模</b>	学級	<b>活動場面</b>	学級活動
<b>活動のねらい</b>	<p>&lt;背景&gt;他者の話を聞く力や方法を身につけていない子どもが多い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり話を聞くことで友達に関心をもち、友達の共通点を探る</li> <li>・学級内にいろいろな共通点をもった友達がいることに気付く中から学級意識をもつ</li> </ul>				
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達チェーンカード</li> <li>・探検ボード ・鉛筆</li> </ul>				
<b>学習・活動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>資料等</b>	
<b>1 導入</b> ・学級内の友達について分かったことを発表する。 <b>2 主活動</b>					
学級の友達の共通点をつなぎ全員の「友達チェーン」をつくろう					
○やり方を知る ・自分と友達とのつながりから始める ・「質問していいですか」と断ってから聞く ・共通点が分かったら「ありがとうございました」とあいさつをしてから次の友達を捜す ・時間内で終了できるよう質問されている友達以外の人を捜す ・聞かれたくない質問をされたときには「パス」といっていい ・自分と違うことがあっても非難したりしない  ○友達チェーンを作る		・カードの書き方を板書し理解できるようにする ・例を挙げ、どういうことを共通点とするのか分かるようにする (好きな食べ物・好きな色・住んでいるマンション・好きな教科・誕生月・行ったことのある場所 等) ・質問項目が思い当たらない児童には、板書例の中から探すようにする ・探検ボードに挟んで使う ・途中で終わってしまった場合は休み時間等を使って完成するようにする		友達チェーンカード	
<b>3 ふり返り</b> ・学級の友達の共通点を発表する ・やってみてどんなことを思ったか発表する					
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞かれたくない質問があったときには「パス」を出すことによって人権的な配慮を促すようにする</li> <li>・いろいろな友達がいいて一人一人違っていても共通点でつながっていることに気付かせたい</li> <li>・一人であるような子へは、支援する</li> </ul>				

参考；丸山正ほか、東京都レクレーション連盟「小学校の室内ゲーム」（成美堂出版、1983年）

# 友達手紙

名前 ( )

※ 友達との共通点をつなぎ輪をつくりましょう。

※ ○ には友達の名前、—— 線と線の間には共通点を書き  
どんつけていきます。

